

令和5年度 国立夜須高原青少年自然の家教育事業

夜須高原 竹を楽しむファミリーキャンプ②

『 家族で納涼流しそうめん! 』 【実施報告】

1. 趣 旨 夜須高原の里地里山に及ぼす竹害の現状に触れ、竹を活用した自然体験や生活体験の中にSDGsの視点を取り入れ、家族で持続可能な社会づくりについて楽しく学ぶことを目的とする。また、活動を通して、親子の絆や参加者同士の交流を深める場を提供する。

2. 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立夜須高原青少年自然の家

3. 期 間 ①令和5年7月15日(土)～16日(日)
②令和5年7月16日(日)～17日(月)

4. 場 所 国立夜須高原青少年自然の家(福岡県朝倉郡筑前町三箇山1103)

5. 参 加 者 ①37名(13家族)
②52名(15家族)

6. 活動様子

6-1. 竹工作



6-2. SDGs ウォークラリー



6-3. 流しそうめん・川遊び



7. 感想

① プログラムに関すること

- ・楽しく安全に参加できるようプログラムされていて親子でとても楽しめました。
- ・流しそうめんが楽しかった。
- ・夏の遊びがたくさんできて楽しかった。竹害という言葉も初めて知りました。
- ・(竹水鉄砲作りでは)少し失敗した場所もあったけど、何度も挑戦して成功しました。
- ・竹のお箸づくりは意外と簡単だったが達成感があった。

② 事業全体に関すること

- ・天気に合わせて対応してくださりとても良かったです。
- ・普段体験できないことをすることが出来たので良かったです。
- ・子どもが自分から声をかけて色々な子どもたちと遊んでいる姿を見てたくましくなったなと思いました。
- ・一日目の夜の自由時間が長くて家族でゆっくり過ごせて良かった。スケジュール詰めすぎないのが良いので次回もお願いします。
- ・ぜひ家族でも利用したいと思いました。森林散策は特に安全に体験できる機会が少ないのでまた参加したいです。

8. 成果

本事業を通して、参加者は夜須高原の里地里山地域に生じている竹害について学習するとともに、流しそうめんや川遊びを通して夜須高原の竹林や自然を楽しむことができた。SDGs ウォークラリーで夜須高原の竹害を実際に観察した後に、自分たちの手で流しそうめんのコースを作成したことで、竹害の現状と対策を一連の流れで体験することが出来たのではないかと考える。

竹工作については、流しそうめんのコースや竹水鉄砲、竹のお箸などを作成した。各家族で作成した竹水鉄砲や竹のお箸の工作では、親子で協力して作業を行う姿が見られた。また、流しそうめんのコース作成では、複数の家族で協力してコース作成を行ったため家族間の交流を深めることが出来た。

SDGsウォークラリーでは、スライドを用いて森林の働きと夜須高原の里地里山地域に生じている竹害について解説を行った後に、家族ごとにウォークラリーに出発した。家族ごとに無理のないペースで進行をすることが出来たため、親子でのびのびと森林散策を行う様子が見られた。

流しそうめんでは、家族で楽しく食事をしている様子が見られた。竹を自分たちで切ってコース作成を行い流しそうめんをするという普段体験できない体験を提供出来た。

川遊びでは、川の水の冷たさなどの自然の環境を体感し存分に遊ぶ様子が見受けられた。また、家族の垣根を超えて、子ども同士で声を掛け合って楽しそうに遊ぶ様子が見られた。

一連の事業を通して、竹を使った普段体験できない体験を提供することが出来、親子の絆を深めること、家族間の交流を図ること、子どもたちの豊かな感情の醸成に寄与することが出来たと考える。

9. 課 題

本事業では、竹水鉄砲や竹のお箸などの竹工作を行ったが、未就学児や低学年の参加者の子どもたちが行うには作業の難易度が高い部分もあった。また、前回の竹を楽しむファミリーキャンプにも参加しており、竹のお箸づくりを既に経験している家族も複数存在した。そのため、作業を行う児童の年齢に合わせて工作物を難易度別に複数種類準備するなどの対応が必要であると考えられる。

次回の竹を楽しむファミリーキャンプでは竹炭焼きを実施する予定だが、竹炭焼き以外にもこれまでの竹を楽しむファミリーキャンプの実施内容と重複しない竹を活用したプログラムを考案する必要がある。